

## マテリアリティ

### 11項目のマテリアリティ(重要課題)を特定

日油グループは、NOF VISION 2030のありたい姿を実現するため、それぞれの課題でKPIとその目標を設定しています。目標数値と実績とのギャップを評価し、翌年以降の目標を再設定して達成を目指します。

#### マテリアリティ特定プロセス



従来のプロセスで検討したテーマに、新たな社会課題・注目度の高い課題を加え、候補テーマをリストアップします。各種ガイドラインを参考に、マテリアリティ要素として分類・集約します。

#### 参考資料

- ISO26000
- GRIスタンダード
- SASB CHEMICALS
- SDGs
- 同業他社のマテリアリティ
- 社内ワークショップ

マテリアリティ要素について、「社会への影響度」と「自社への影響度」の2軸で、取り組むべき優先度を評価します。これには以下の項目を考慮します。

- ① ESG評価機関による日油の評価結果
- ② 直近1年間に株主さまからいただいたESGに関するご意見
- ③ 日油グループが過去に推進してきた課題の視点

CSR活動の推進を担う各部門の意見を取りまとめた上で、役員執行役員で構成する政策会議、ならびに社長を委員長とするCSR委員会における協議を経て、重要課題を選定します。また、重要課題の主管部門・担当部門は、KPI・目標値を立案します。

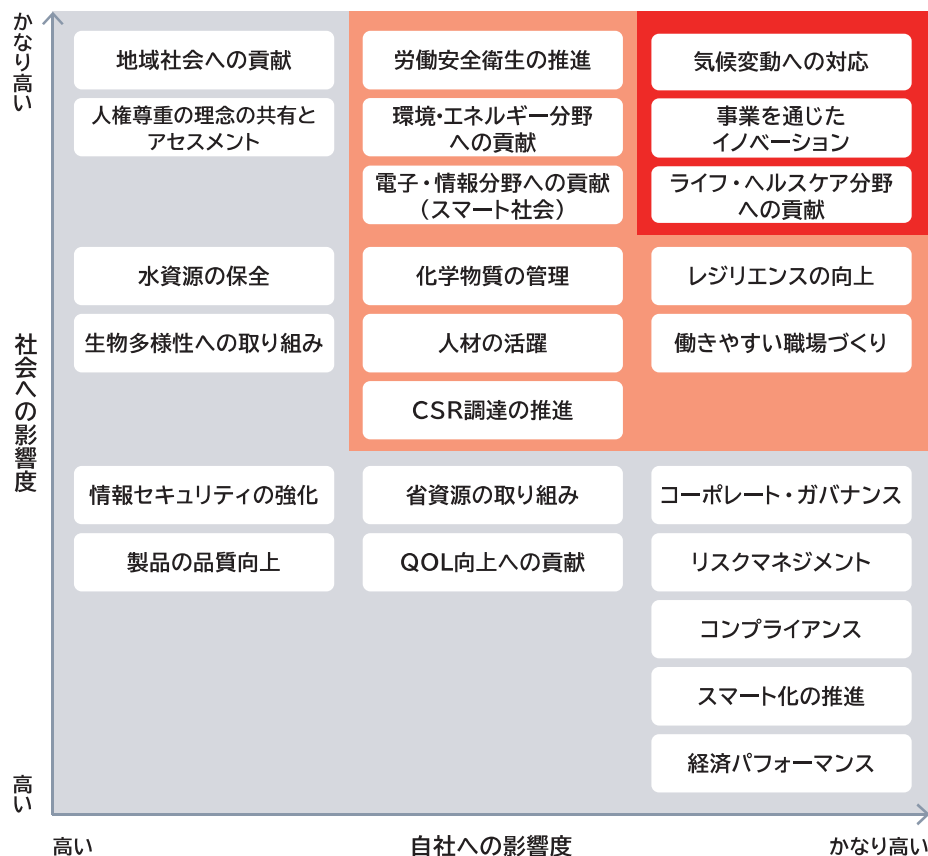
重要課題を取締役会で承認します。また、各項目のKPI・目標値は、取締役会の意見を踏まえて適宜修正します。これに基づき、各部門はそれぞれの活動を行います。

重要課題は、定期的にレビューを行います。重要課題の各項目は、社内外のステークホルダーの意見を取り入れ、STEP1~3を経て毎年見直しています。

## マテリアリティ

### マテリアリティ・マトリックス

24項目のマテリアリティ要素を「社会への影響度」と「自社への影響度」の2軸でマッピングし、マテリアリティ・マトリックスにしました。右上の領域に示される11項目を重要課題（マテリアリティ）として特定しました。



### 2022年度 レビュー

社長を委員長とするCSR委員会に社外取締役を含む全取締役および役付執行役員が参加して、各マテリアリティの2022年度の実績値をもとに、マテリアリティのレビューを実施しました。2022年度の実績確認・2023年度の目標設定のため、委員会を2回開催しました。レビューの結果、以下の点を変更しました。

- ① 目指す3分野に対応したマテリアリティの名称を「目指す3分野への貢献」と直接的に表現することで、ありたい姿・2025中計との関連を明示します。なお、電子・情報分野への貢献については、対象とする範囲が広いいため、スマート社会と付すことで目指す方向を明示します。

目指す3分野	見直し前	見直し後
ライフ・ヘルスケア	医薬・医療・健康 への貢献	ライフ・ヘルスケア分野 への貢献
環境・エネルギー	環境配慮型製品による貢献 (環境負荷の低減)	環境・エネルギー分野 への貢献
電子・情報	スマート社会への貢献	電子・情報分野への貢献 (スマート社会)

- ② 働きやすい職場づくり・人材の活躍については、見直し前は3項目のKPIを設定していたところ、9項目のKPIを設定します。

▶ P.049-050

## マテリアリティ

### 3つのカテゴリーと主な取り組み内容

マテリアリティ・マトリックスに配置した11項目の重要課題は、大きく3つの活動カテゴリーに分類しました。

#### 豊かで持続可能な社会実現 のための新たな価値の提供

目指す3分野に向けて、多岐にわたる事業展開の中で培ったコア技術の組み合わせにより、新しい価値の提供を目指します。



▶ P.044-047

#### 事業基盤の強化

価値観の多様性を受け入れる企業風土を築き上げるとともに、環境の変化、技術の進歩を適切にとらえ、レジリエンスを高めていきます。



▶ P.048-053

#### レスポンスブル・ケア活動の推進

製品の開発、製造から廃棄まですべての過程において、「環境・安全・健康」を確保することで、社会全体から信頼される企業グループを目指します。



▶ P.054-067

豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供

マテリアリティ	2022年度					2023年度			
	目標 (KPI)	目標値	目標年	実績	主な取り組みの内容	目標 (KPI)	目標値	目標年	主な取り組みの内容
事業を通じた イノベーション	研究開発投資額 <small>日油グループ</small>	216億円 (3年間累計)	2022年	66億円 (累計185億円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産学委託研究公募</li> <li>● 共同研究の推進</li> <li>● 研究開発力の強化</li> </ul>	研究開発投資額 <small>日油グループ</small>	256億円 (3年間累計)	2025年	<b>研究開発力の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 産学委託研究公募</li> <li>● 共同研究の推進</li> <li>● 知財戦略策定と戦略出願</li> </ul>
	特許出願件数 <small>日油</small>	450件 (3年間累計)	2022年	175件 (累計494件)		特許出願件数 <small>日油</small>	500件 (3年間累計)	2025年	
ライフ・ヘルスケア 分野への貢献 <small>日油グループ</small>	ライフ・ヘルスケア 分野への高機能・ 高付加価値製品 の売上高	5%UP (対前年)	毎年	116.6 ※前年度を 100とする	● 高機能・高付加価値 製品のライフ・ヘル スケア分野への供給	ライフ・ヘルスケア 分野への戦略製品 の売上高	15%UP (対2022年度 実績)	2025年	● 戦略製品のライフ・ ヘルスケア分野への 供給
環境・エネルギー 分野への貢献 <small>日油グループ</small>	環境・エネルギー 分野への高機能・ 高付加価値製品 の売上高	5%UP (対前年)	毎年	117.2 ※前年度を 100とする	● 高機能・高付加価値 製品の環境・エネル ギー分野への供給	環境・エネルギー 分野への戦略製品 の売上高	15%UP (対2022年度 実績)	2025年	● 戦略製品の環境・エ ネルギー分野への供 給
電子・情報分野 への貢献 (スマート社会) <small>日油グループ</small>	電子・情報分野 への高機能・ 高付加価値製品 の売上高	5%UP (対前年)	毎年	120.5 ※前年度を 100とする	● 高機能・高付加価値 製品の電子・情報分 野への供給	電子・情報分野 への戦略製品の 売上高	15%UP (対2022年度 実績)	2025年	● 戦略製品の電子・情 報分野への供給

事業基盤の強化

マテリアリティ	2022年度					2023年度			
	目標 (KPI)	目標値	目標年	実績	主な取り組みの内容	目標 (KPI)	目標値	目標年	主な取り組みの内容
働きやすい職場づくり ・エンゲージメント <small>日油</small>	年次有給休暇取得率	70%以上	2022年	<b>73.4%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク・ライフ・バランスの推進</li> <li>健康経営の推進</li> <li>育児・介護支援</li> </ul>	年次有給休暇取得率	75%以上	2025年	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次有給休暇取得の促進</li> <li>エンゲージメント調査を起点とした施策の実行</li> </ul>
	—	—	—	—		—	総合エンゲージメントスコア	50以上	
人材の活躍 ・人材育成 ・ダイバーシティ <small>日油</small>	—	—	—	—	—	研修費用	2.5倍以上 (2022年度比)	2025年	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成支援体制の強化</li> </ul>
	総合職採用の女性比率	30%以上	毎年	<b>36.1%</b> (2023年4月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍推進</li> </ul>	総合職採用の女性比率	30%以上	毎年	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合職女性の採用拡大</li> </ul>
	—	—	—	—	—	女性管理職比率	3倍以上 (2021年度比)	2030年	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率の拡大</li> </ul>
	障がい者雇用率	2.30%以上	2023年3月まで	<b>2.46%</b> (2023年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用の推進</li> </ul>	障がい者雇用率	3.0%以上	2030年	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用の推進</li> </ul>
	—	—	—	—	—	正社員男女賃金差異比率	75%以上	2030年	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女賃金差異の縮小</li> </ul>
	—	—	—	—	—	男性育児休業取得率	100%	2030年	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性育児休業取得率の拡大</li> </ul>
CSR調達の推進 <small>日油</small>	CSRアンケート調査のカバー率(購入金額ベース)	70%以上	2022年	<b>84%</b> (2022中計期間の累計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先へのCSRアンケート調査実施</li> </ul>	CSRアンケート調査のカバー率(購入金額ベース)	85%以上	2025年	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーへのCSRアンケート調査実施</li> <li>対象とするサプライヤーの検討と面談内容のブラッシュアップ</li> </ul>
	—	—	—	—		—	CSR調達の定着化に向けた対象サプライヤーへの面談による改善依頼(会社数ベース)	85%以上	
レジリエンスの向上 <small>日油グループ</small>	BCP教育訓練時間	のべ 3,000時間以上	毎年	のべ <b>5,200時間</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCPマニュアルの改訂と周知</li> <li>BCP訓練の実施</li> <li>BCP監査による箇所活動の確認</li> </ul>	BCP教育訓練時間	のべ 4,000時間以上	毎年	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種BCPマニュアルの充実化</li> <li>訓練シナリオ拡充による対応力向上</li> <li>監査による箇所活動の点検・確認</li> </ul>

レスポンシブル・ケア活動の推進

マテリアリティ	2022年度					2023年度			
	目標 (KPI)	目標値	目標年	実績	主な取り組みの内容	目標 (KPI)	目標値	目標年	主な取り組みの内容
気候変動への対応	CO <sub>2</sub> 排出量 <small>国内グループ</small>	40%削減 (2013年度比)	2030年	144千トン/年  20.0%減 (2013年度比)	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガス削減施策立案と実施</li> <li>エネルギー管理状況の把握</li> <li>カーボンニュートラル方針の周知</li> <li>非化石証書付電力の購入</li> </ul>	CO <sub>2</sub> 排出量 <small>国内グループ</small>	40%削減 (2013年度比)	2030年	<ul style="list-style-type: none"> <li>低環境負荷エネルギー源への転換推進</li> <li>省エネ設備の導入推進</li> <li>エネルギー効率的利用と見える化の推進</li> </ul>
	カーボンニュートラル <small>日油グループ</small>	達成を目指す	2050年			カーボンニュートラル <small>日油グループ</small>	達成を目指す	2050年	
化学物質の管理	2021年度改正PRTR対象物質排出量 <small>国内グループ</small>	170トン/年以下	毎年	148トン/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRTR法改正への対応および削減施策立案と実施</li> <li>改正後の排出量予測実施</li> <li>他社、日油状況調査</li> </ul>	2021年度改正PRTR対象物質排出量 <small>国内グループ</small>	170トン/年以下	毎年	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出量削減施策の創出と実行</li> <li>製造プロセスの再評価</li> </ul>
労働安全衛生の推進	休業災害発生件数 <small>国内グループ</small>	ゼロ	毎年	1件	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険に対する感性の向上と安全行動の徹底</li> <li>労働安全教育・訓練の実施</li> <li>危険予知能力の強化</li> <li>災害リスクの低減</li> <li>不安全行動、不安全状態の摘出と対策の強化</li> </ul>	休業災害発生件数 <small>国内グループ</small>	ゼロ	毎年	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険に対する感性の向上と基本的安全行動の徹底</li> <li>災害リスクの低減</li> <li>三現主義に基づく対策の強化</li> </ul>